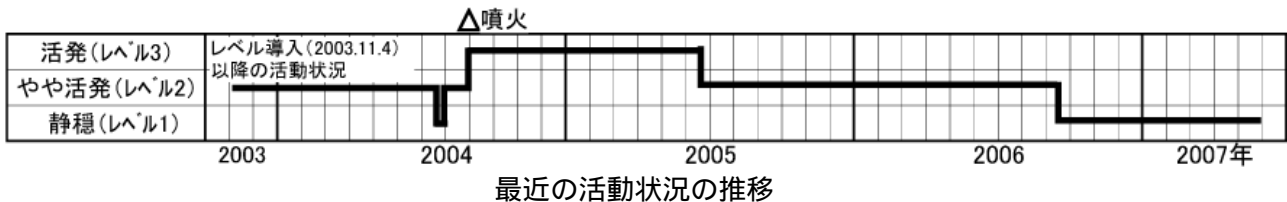


浅間山

○ 火山活動評価：静穏な状況（レベル 1）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

現在の火山活動度レベルは 1 です。2006 年 9 月 22 日以降、レベル 1 が継続しています。



○ 概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3 - 、表 1）

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上概ね 100～200m で推移しました。

16日に陸上自衛隊の協力により上空から行った二酸化硫黄の放出量の観測では、山頂火口からの放出量は一日あたり90～200 t と2006年 8 月以降やや少ない状態が続いています。

・山頂火口内の熱の状況（図 1、図 2）

8 日及び 9 日に山頂付近での観測、16 日及び 29 日に上空からの観測（陸上自衛隊、群馬県の協力による）を実施しました。火口内の地形や地表面温度分布¹⁾にも特段の変化はなく、高温状態が続いていました。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器で、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図 3 - 、図 4、図 6、表 1）

火山性地震の発生回数はやや少ない状態で経過しました。発生した地震の多くが周期の長い特徴を持つ BL 型地震（波形例は図 6 参照）で、震源は求まっていませんが、山頂火口直下のごく浅い所に発生していたと推定されます。このほか、周期の短い特徴を持つ BH 型地震（波形例は図 6 参照）が発生しており、求まった震源はこれまでと同様に山頂直下の深さ約 1～2 km に分布しました。また、A 型地震（波形例は図 6 参照）は山頂のやや西よりの深さ約 3～4 km 付近に 2 回、東よりの深さ約 2 km 付近に 1 回発生しました。

火山性微動は 4 回発生しましたが、いずれも振幅の小さなものでした。

・地殻変動の状況（図 3 - ）

山体周辺のGPS連続観測では、特段の変化はありませんでした。このほか、傾斜観測²⁾や光波測距観測³⁾でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により、山体が膨張・収縮した場合に変化が観測されることがあります。
3) レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。山体の膨張や収縮による距離の変化を観測しています。

この資料は気象庁のほか、国土交通省利根川水系砂防事務所、東京大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ(標高)』を使用しています(承認番号：平 17 総使、第 503 号)。



図 1 浅間山 山頂火口の状況（2007 年 5 月 29 日、南東上空から撮影）

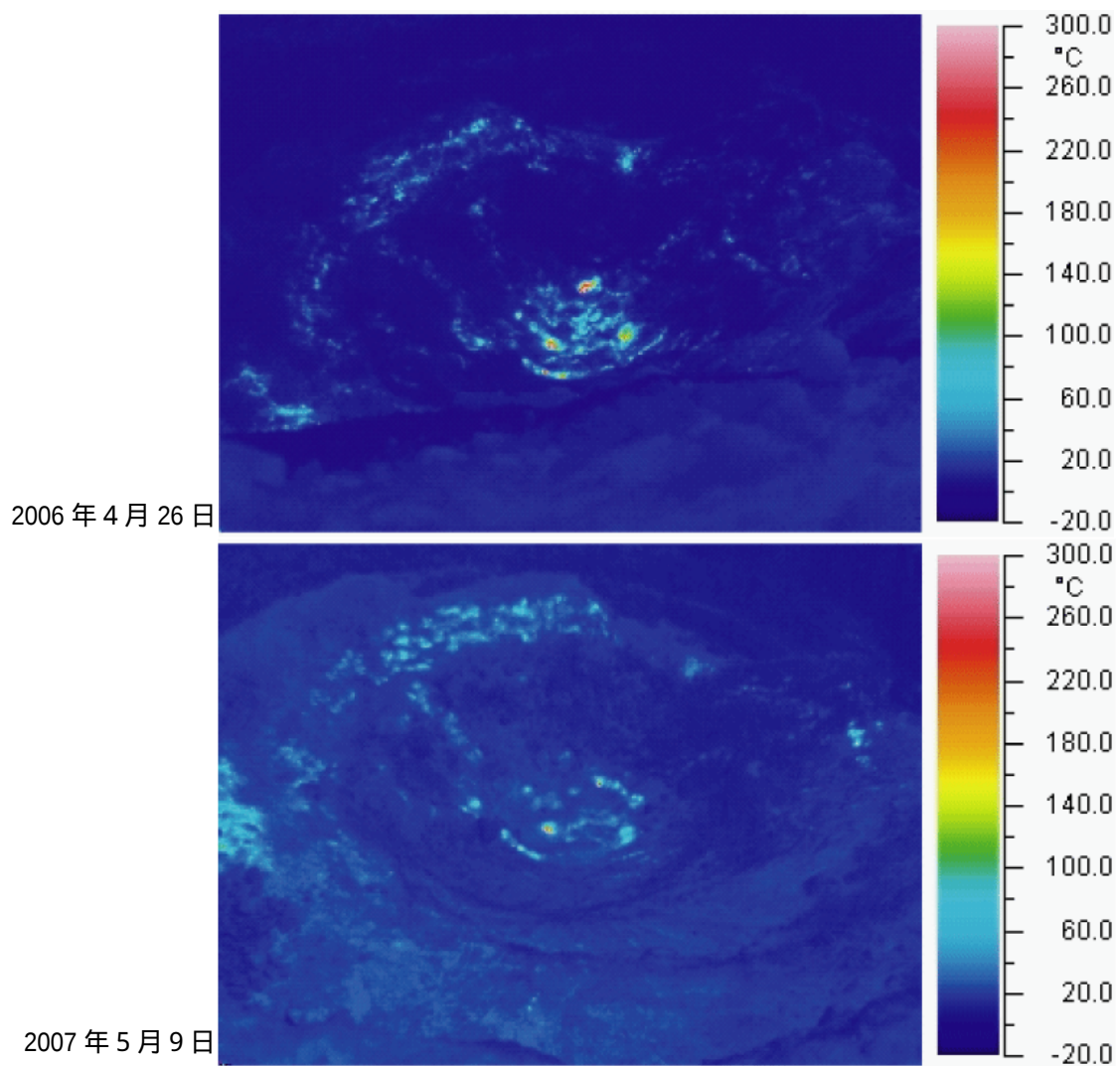


図 2 浅間山 赤外熱映像装置¹⁾による山頂火口内の温度分布（火口南西縁から撮影）

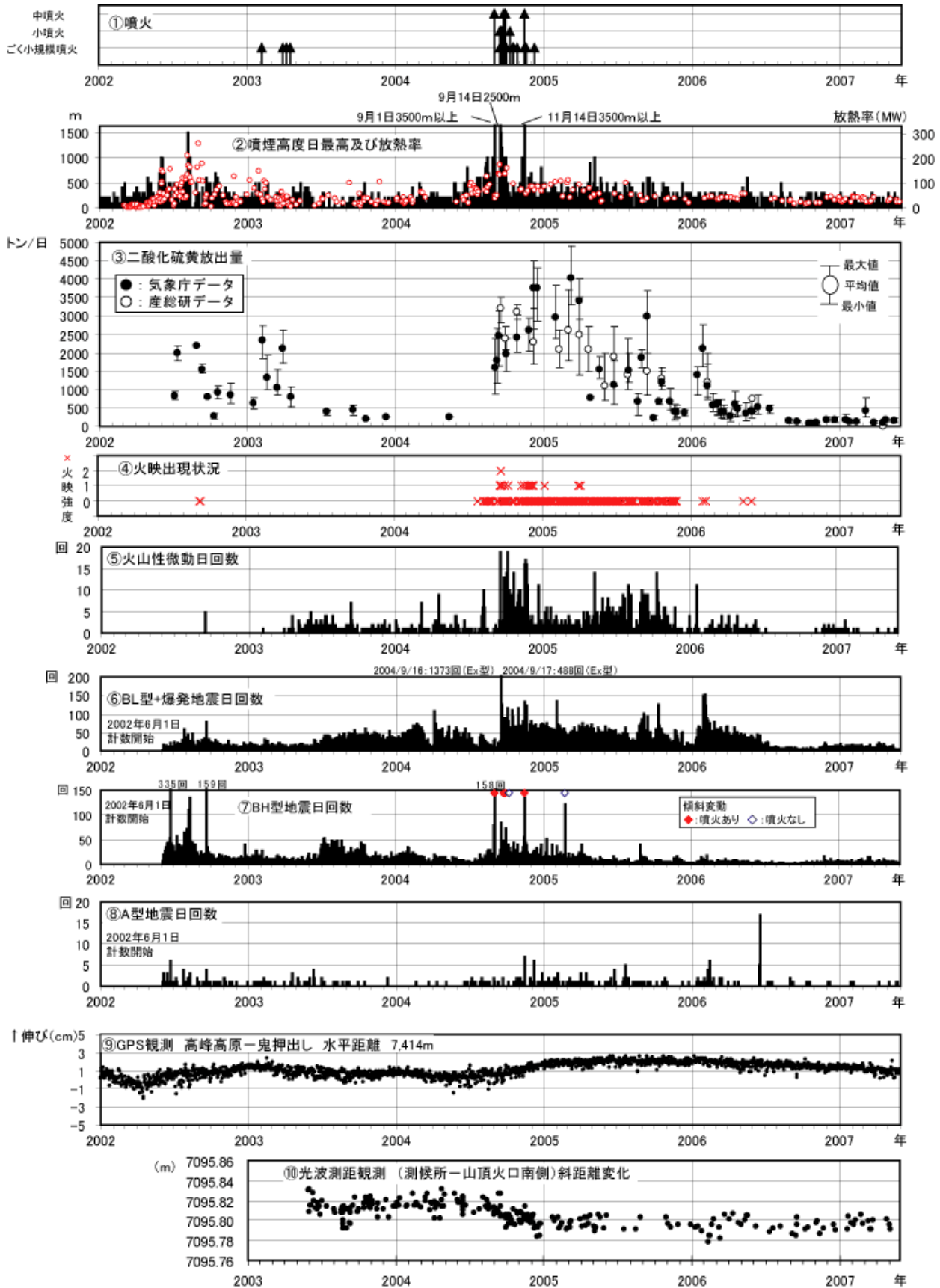


図3 浅間山 最近の火山活動の推移（2002年1月～2007年5月）
産業技術総合研究所による観測データ（産総研データ）が含まれています
地震の種類別（図6参照）に計数を開始した2002年6月1日からのデータを掲載。

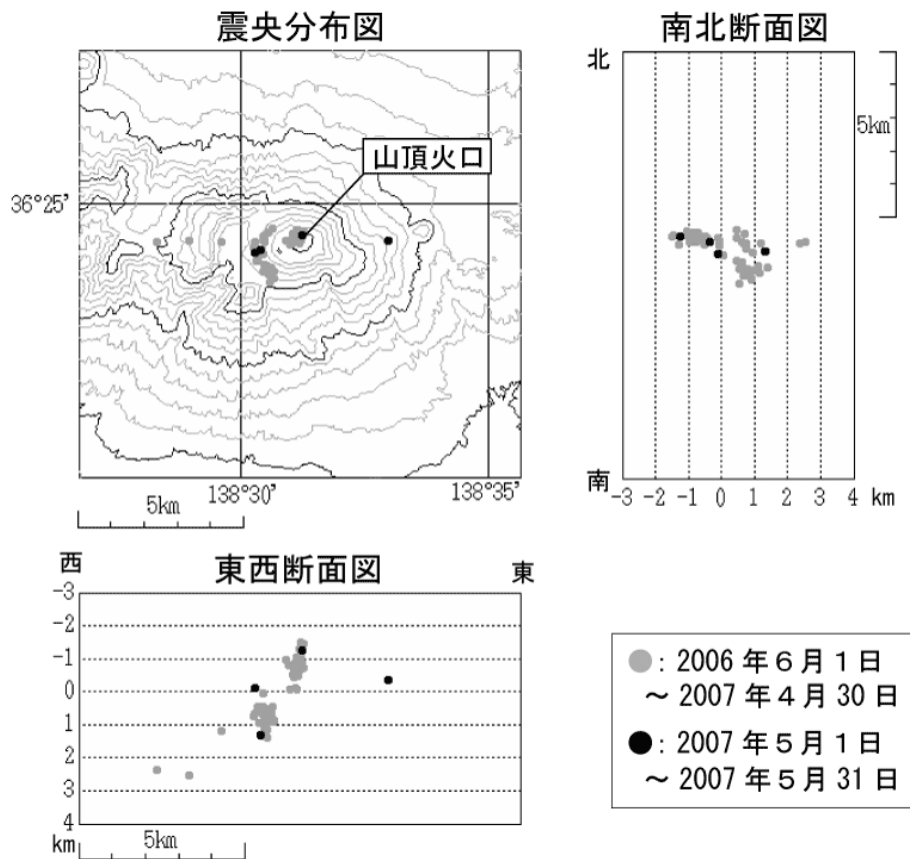


図 4 浅間山 火山性地震の震源分布（2006 年 6 月 1 日～2007 年 5 月 31 日）

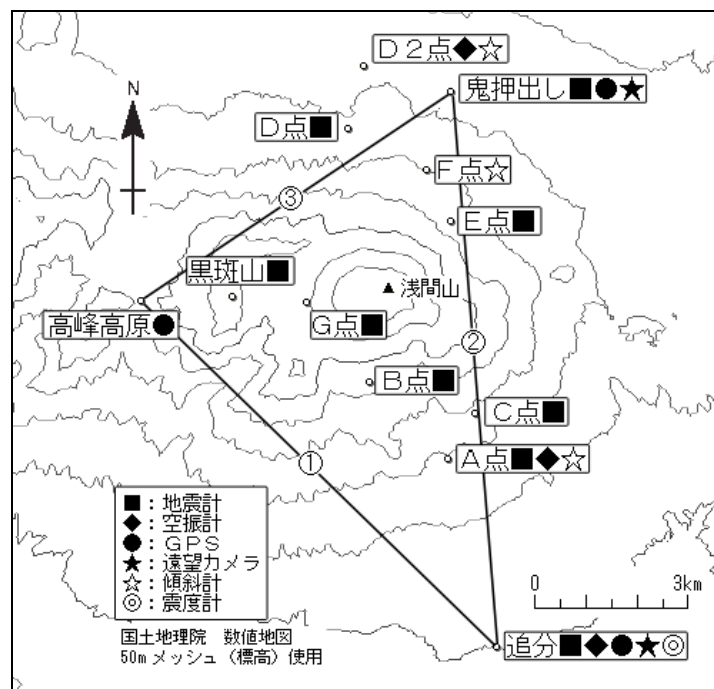


図 5 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
GPS 基線 は図 3 の に対応しています。

表 1 浅間山 2007 年 5 月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震の回数 4)						地震合計	微動回数	噴煙の状況 5)		火映強度 6)	備考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他				日最高 (m)	噴煙量		
1日	0	0	2	9	0	0	11	0	0	—	—	—	
2日	0	0	5	9	0	0	14	0	0	X	X	—	
3日	0	0	0	5	0	0	5	0	0	100	X	—	
4日	0	1	7	8	0	1	17	0	0	100	1	—	
5日	0	0	4	11	0	0	15	0	0	200	2	—	
6日	0	0	6	8	0	0	14	0	0	X	X	—	
7日	0	0	1	12	0	0	13	1	1	100	X	—	
8日	0	0	3	8	0	0	11	1	1	200	1	—	
9日	0	0	1	7	0	0	8	0	0	100	1	—	
10日	0	0	1	5	0	0	6	0	0	X	X	X	
11日	0	0	2	4	0	0	6	0	0	100	1	—	
12日	0	0	3	5	0	0	8	0	0	100	1	—	
13日	0	0	8	6	0	0	14	0	0	100	1	—	
14日	0	0	5	15	0	0	20	0	0	300	1	—	
15日	0	0	7	8	0	0	15	0	0	200	1	—	
16日	0	0	7	4	0	0	11	0	0	200	1	—	SO2放出量:90-200t/日
17日	0	0	5	6	0	0	11	0	0	X	X	—	
18日	0	0	3	5	0	0	8	0	0	100	1	—	
19日	0	0	3	4	0	0	7	0	0	100	1	—	
20日	0	0	4	5	0	0	9	0	0	100	1	—	
21日	0	1	1	4	0	0	6	0	0	200	1	—	
22日	0	0	4	5	0	0	9	0	0	X	X	—	
23日	0	0	5	2	0	0	7	0	0	X	X	—	
24日	0	1	3	1	0	0	5	0	0	100	1	—	
25日	0	0	6	6	0	0	12	1	1	X	X	X	
26日	0	0	0	2	0	0	2	1	1	100	1	—	
27日	0	0	3	5	0	0	8	0	0	100	1	—	
28日	0	0	3	3	0	0	6	0	0	X	X	X	
29日	0	0	3	3	0	0	6	0	0	X	X	X	
30日	0	0	1	0	0	0	1	0	0	X	X	X	
31日	0	0	2	5	0	0	7	0	0	X	X	X	
合計	0	3	108	180	0	1	292	4					

- 4) 火山性地震の計数基準はB点で最大振幅0.1 μ m以上、S - P時間3秒以内です。
火山性地震の種類は以下のとおりです。

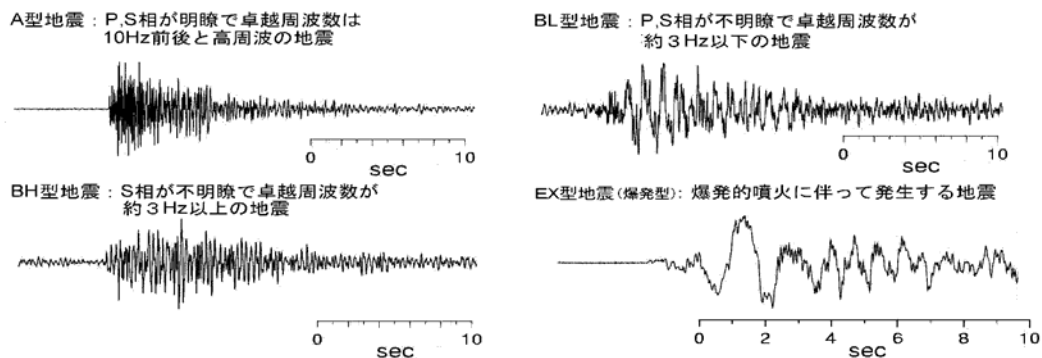


図 6 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

- 5) 噴煙高度と噴煙量は定時観測（09 時・15 時）の日最大値です。噴煙量は以下の 7 階級で観測しています。
- 1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量
7：噴煙量 6 以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる
- 6) 火映の強度は以下の 4 段階で観測しています。
- 0：肉眼では確認できず、高感度カメラのみ確認できる程度 1：肉眼でようやく認められる程度
2：肉眼で明らかに認められる程度 3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
-：火映なし ×：視程不良（終日観測できなかった場合）